

事業所アンケート報告書

令和2年2月

石狩市保健福祉部高齢者支援課

「事業所アンケート」の概要

1 アンケートの目的

事業者の率直な感覚を押し量る目的で意識調査に近いアンケート形式で行い、市内各事業所が行っているサービスや職員等の事業状況の確認、及び、サービスの需給バランスや必要なサービスに対する状況や事業者の意見の確認等を行うことで、地域密着型サービス、総合事業、その他の施策を含めた介護保険事業とその計画の適切な運営を図る。

2 アンケート対象及び件数

市内介護事業所（地域包括支援センターは除く。）、有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅など、106事業所（59法人）へ郵送にて送付。返信用封筒にて回収。

3 アンケート期間

令和元年12月2日から令和元年12月20日まで。

（最終回答 令和2年1月6日まで含む。）

4 アンケート手法

市が直接実施（郵送）する。依頼は法人宛に送付し、その中で事業所毎に回答を依頼する。回答は、法人が事業所毎とりまとめ郵送で返信する。

5 アンケート票

（参考資料）事業所アンケート

6 結果の概要

多種多様な介護サービス等の種類があることから、その種類を

- ・住宅系（介護サービス外の有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅）
- ・施設系（短期入所生活介護、短期入所療養介護、特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設（介護医療院）等）
- ・支援系（居宅（予防）介護支援）
- ・その他（これら以外の訪問介護等のサービス）と分類し、概ねの傾向を次ページ以降のように分析した。

また、厚田区及び浜益区の事業所についても注視し必要と判断する場合は分析概要に記載した。

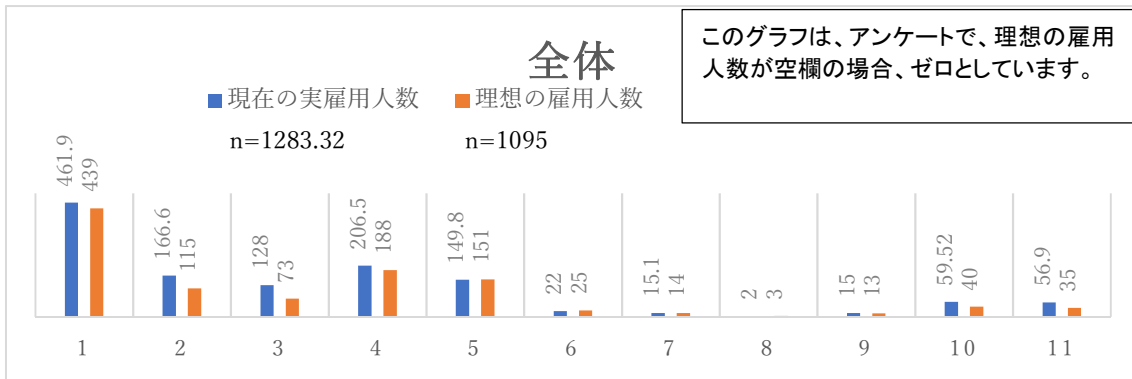
7 回収率

その他 83.9%（47/56）、支援系 100%（11/11）、施設系 91.3%（21/23）、住宅系 75%（12/16）合計 85.8%（91/106）

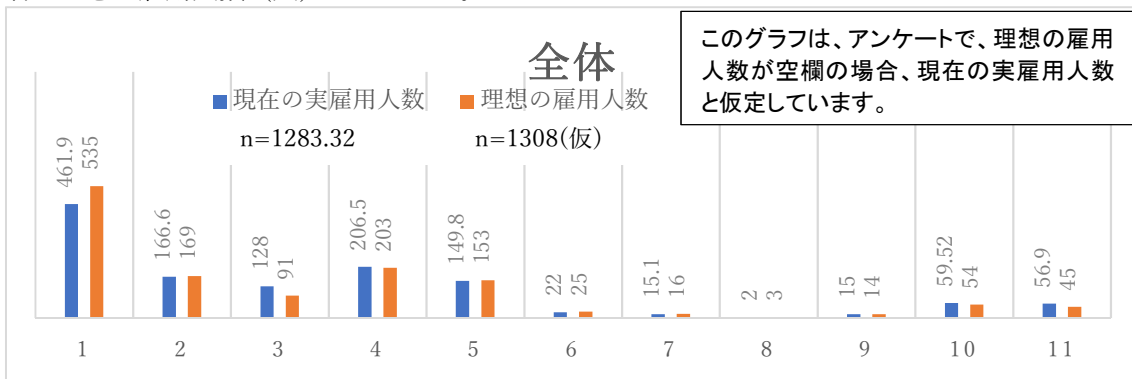
1 職員の数と職員確保について

【設問】 現在配置している各職種等の人数、理想的な配置希望人数を、常勤換算従事者数と常勤の専従職員数で記載してください。(有料老人ホーム等は概ねの人数で結構です。) また、特に人材確保に苦慮している職種を上位3つまで番号を○で選んでください。

1 現在の実雇用と理想の雇用人数の比較



(注釈) 介護スタッフ (1 介護福祉士、2 介護職員初任者研修者、3 上記2,3 以外の介護スタッフ)、看護分野スタッフ (4 看護師、准看護師、保健師等)、リハビリ分野スタッフ (5 理学療法士、作業療法士、6 言語聴覚士)、その他の専門職等 (7 社会福祉士、8 歯科衛生士、9 栄養士・管理栄養士等、10 介護支援専門員、11 その他) とし (次グラフも同様。)、グラフ左を実雇用、右を理想の雇用人数 (人) としている。



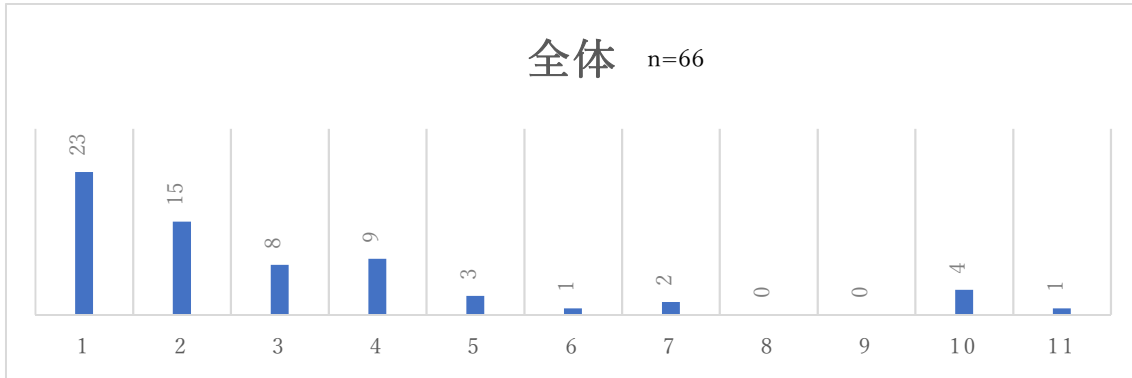
(注釈) 同上

分析概要

理想の雇用人数より現実の雇用人数が不足しているものは、全体ではリハビリ分野スタッフ (5 理学療法士等、6 言語聴覚士) であった。分類類型毎に理想より現実が不足しているものを見ると、その他では、6 言語聴覚士と7 社会福祉士、支援系は1 介護福祉士、施設系は1 介護福祉士5 理学療法等、6 言語聴覚士であり、住宅系は不足しているという回答はなかった。概ね、必要人数は充足しているものと思われ、逼迫した状況ではないと思われる。

なお、アンケート結果数値とは異なるが、仮にアンケートで理想の雇用人数が空欄の場合にそれを現在の実雇用人数現実と同数とみなした場合、市全体で現実の雇用人数 (約 1,283 人) が理想の雇用人数 (1,308 人) に充足していない状況が伺える。人材確保に苦慮している職種は介護スタッフが多く、特に資格職の介護福祉士が求められていることが伺える。

2 人材確保に苦労している職種



(注釈) 1～11 の職種は前グラフの注釈と同じ

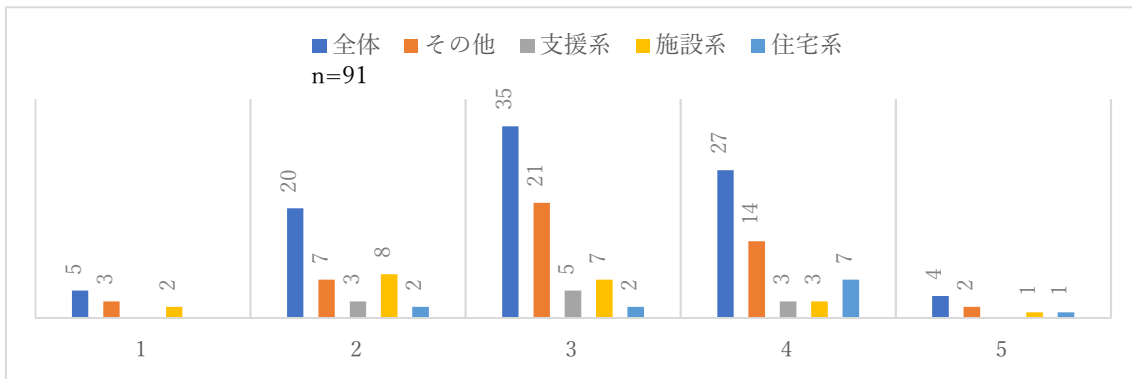
分析概要

人材確保に苦労している職種は、その他、施設系、住宅系においては主に介護スタッフ（1 介護福祉士、2 介護職員初任者研修者、3 それ以外の介護スタッフ）と 4 看護師であった。支援系では 10 介護支援専門員との回答が多かった。

概ね、必要人数は充足しているものの、事業所において多数を占める介護スタッフの確保には苦労していると思われる。

2 職員の不足感について

【設問】 職員の過不足状況についてどう感じていますか。



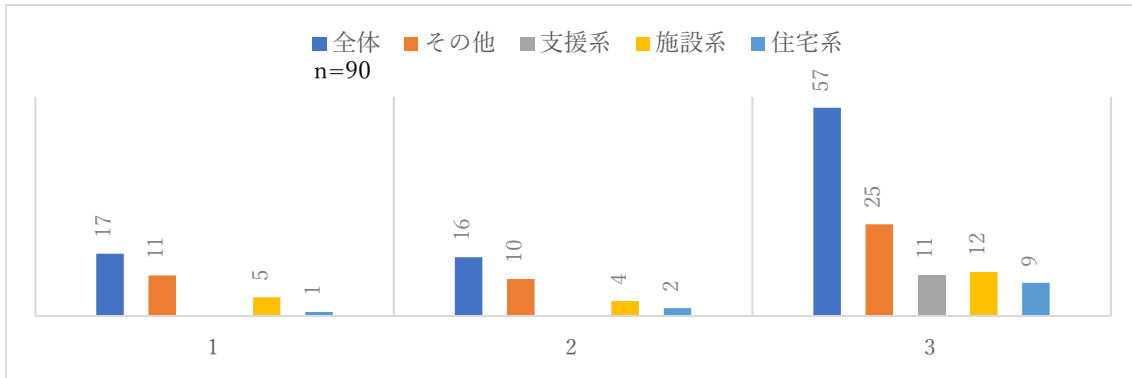
(注釈) 1 大いに不足 2 不足 3 やや不足 4 ちょうどよい 5 余裕がある

分析概要

全体では、やや不足している感覚を持っている回答が多かった。分類類型別に見ると、支援系は「3 やや不足」、施設系では「2 不足」、住宅系では「4 ちょうどよい」という回答が多く、施設系での職員の不足感が多く見られた。設問 1 と設問 3 も踏まえると、恐らく、介護保険サービス事業所の人員基準により一層の厳しさを感じられているものと思われる。

③ 職員の定着状況について

【設問】 職員の定着率についてどう感じていますか。



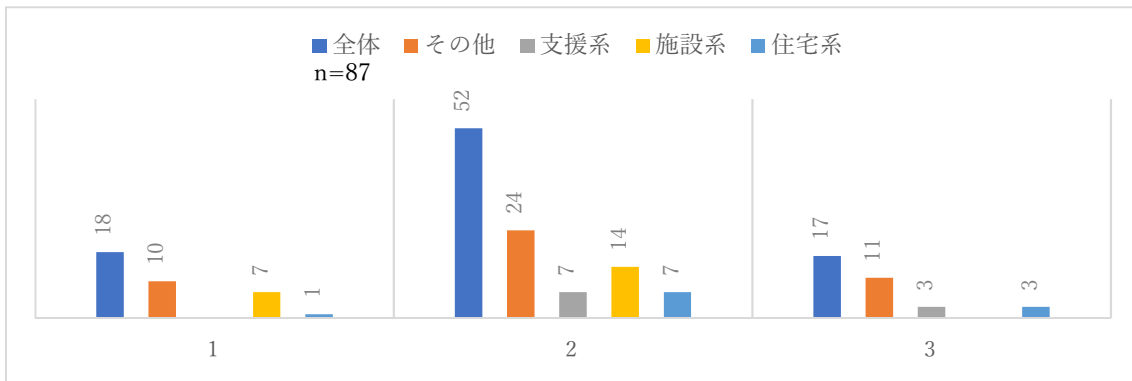
(注釈) 1 低くて困っている 2 低いが困っていない 3 困っていない

分析概要

全体では、困っていない感覚を持っている回答が多かった。また、厚田区及び浜益区においても困っていないという回答が多かった。定着率については概ね安定している感覚の回答が多く、特に、支援系では全回答が困っていないとの回答であった。

④ 生活援助にかかる助手、補助者の活用について

【設問】 有資格者ではないが一定程度生活援助サービス等ができる人（石狩市の訪問型サービス A 従事者研修等を受けた人）の活用について、どのように思いますか。



(注釈) 1 活用できる 2 検討の余地はある 3 活用できない

分析概要

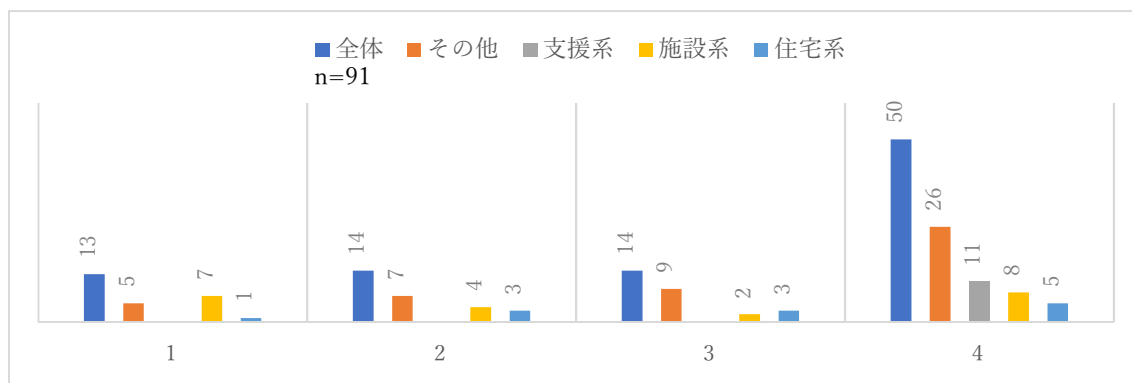
有資格者ではないが、市が実施する「訪問型サービス A 従事者研修」等を受講し買物、調理、掃除、ゴミ分別等の簡易な生活支援を一定程度ができる人材の活用について、全体では、「1活用」できる、「2検討の余地はある」という感覚を持っている回答が多かった。

分類類型別に見た場合、最も多いのが「2検討の余地はある」という回答だが、支援系は「1活用できる」という回答がゼロであり、これは専門性が強いことによると思われる。施

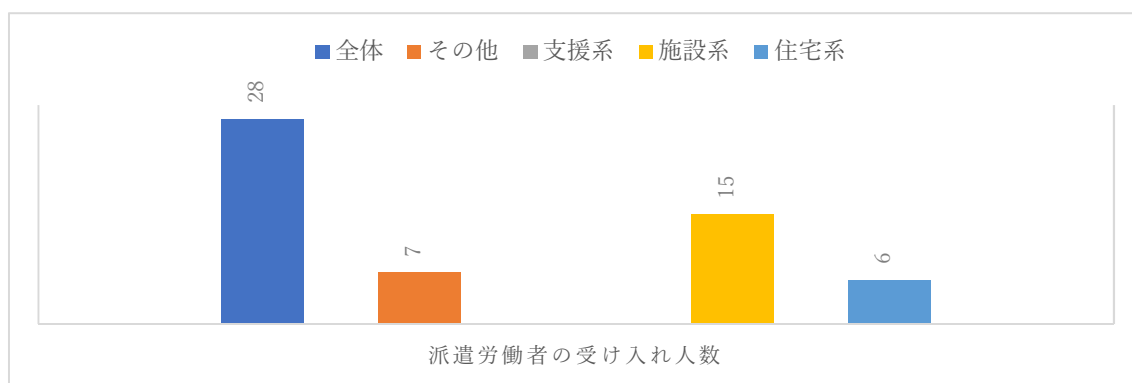
設系では「3活用できない」という回答がゼロであり、これは職員の不足感を反映しているものと思われる。

5 派遣労働者の活用について

【設問】 派遣会社から派遣された人（労働者派遣法に基づく）を受け入れていますか。また、既に受け入れている場合、その人数も教えてください。



(注釈) 1 受け入れている 2 検討している 3 わからない 4 派遣の受け入れはしない

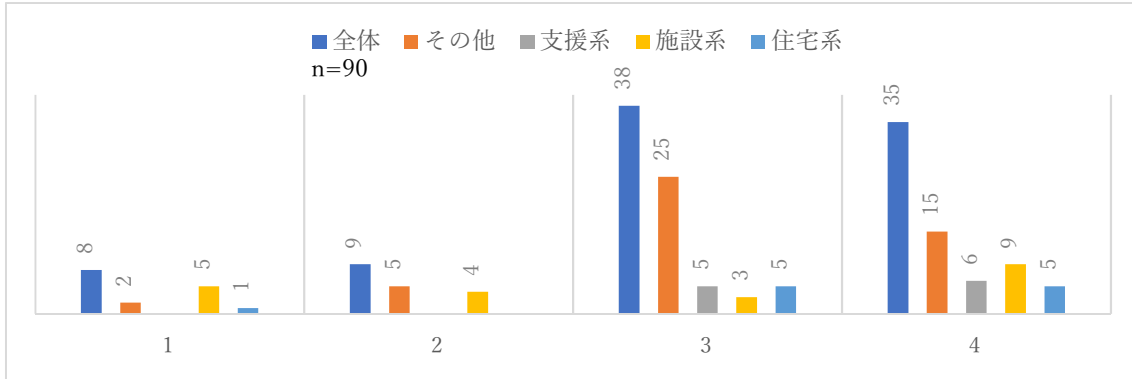


分析概要

全体では、わからないという回答もあるが、派遣労働者を受入れている事業所も見られる一方、受け入れを行わないと回答する事業所が最も多かった。分類類型別に見た場合、その他は、「4 派遣の受け入れはしない」という回答が多い一方、「1 受け入れている」という回答もあり、平均して1事業所につき1.4人の受け入れをしているとの回答であった。支援系は全てが「4 派遣の受け入れはしない」という回答であり、これは専門性が強いことによるものと思われる。施設系は「1 受け入れている」という回答が類型別で最も多く、1事業所につき2.1人の受け入れをしているとの回答であった。住宅系では1事業所につき6人の受け入れをしているとの回答であり、経営の手法や状況の違いがあると思われる。厚田区及び浜益区においては「3 わからない」又は「4 派遣の受け入れはしない」との回答が多かった。

6 介護ロボットの活用について

【設問】 介護ロボット（介護リフト、離床センサー等）の活用について、どのような状況（またはお考え）ですか。



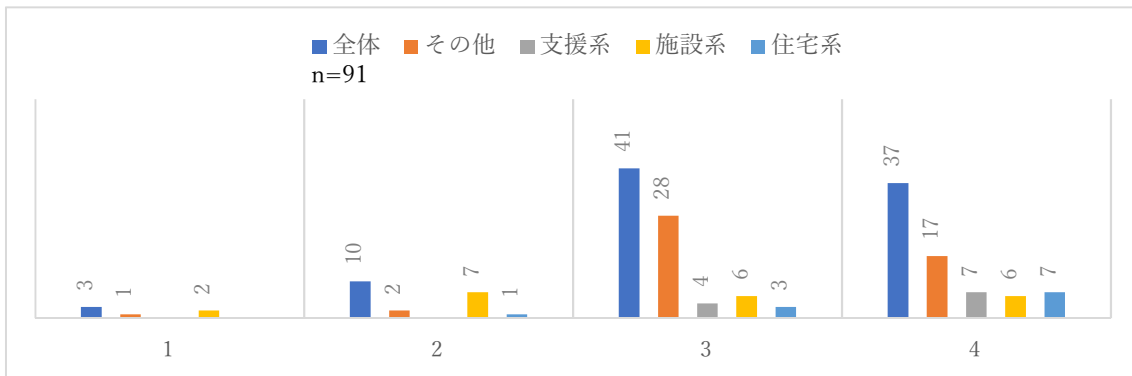
(注釈) 1 既に活用している 2 検討している 3 わからない 4 活用はしない

分析概要

全体では、既に活用している事業所も見られる一方、活用はしないと回答する事業所も多かったが、わからないという回答が最も多かった。分類類型別に見た場合、その他は、この全体の傾向と同じであり、通所介護、訪問リハビリテーションでの活用がみられた。支援系ではその性質からか「4活用はしない」という回答が多かった。「1既に活用している」という回答が最も多かったのが施設系で、特別養護老人ホーム、グループホーム、介護老人保健施設での活用が見られた。全体的に「3わからない」、「4活用はしない」との回答が多いことについては、経営の手法や状況の違いがあることや、介護ロボットの知識や周知の不足があるものと思われる。

7 外国人材の活用について

【設問】 外国人（在留カードを持っている人）の雇用（技能実習生含む）について、どのような状況（またはお考え）ですか。



(注釈) 1 既に雇用している 2 検討している 3 わからない 4 外国人の雇用はしない

分析概要

全体では、わからないという回答が最も多かったが、次に外国人の雇用はしないという回答が多かった。一方で既に雇用している、検討しているという回答した事業所も見られた。分類類型別に見た場合、その他は、この全体の傾向と同じであり、支援系では「1既に雇用している」、「2検討している」という回答はなく、「4外国人の雇用はしない」という回答が最も多く、これは業務の性質上によるものと思われる。施設系では、「2検討をしている」という回答が「4外国人の雇用はしない」という回答を上回った。住宅系では「外国人の雇用はしない」という回答が最も多かった。「1既に雇用している」と回答した事業所は全体で3事業所あり、技能実習生活用2事業所、EPA活用1事業所であった。また、「2検討をしている」と回答した事業所は施設系が最も多かった。

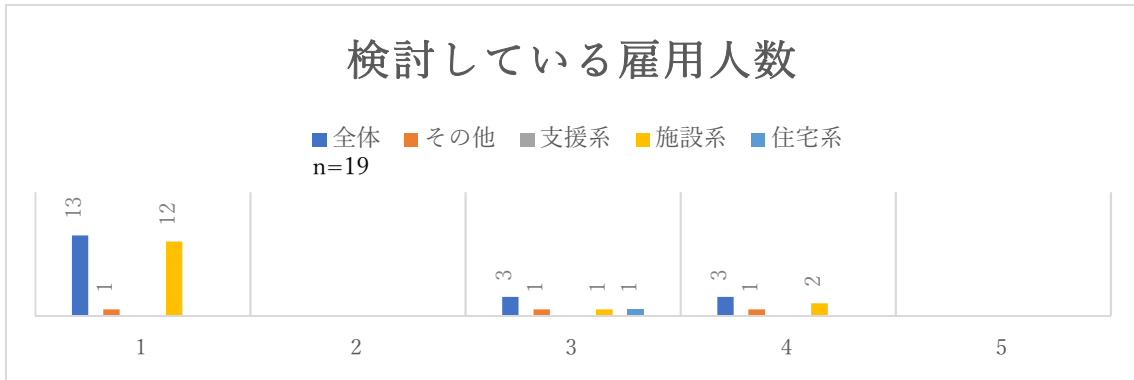
全体として、昨今の少子高齢化社会は介護分野のみならず日本が世界に先駆けて初めて直面する社会的な課題であり、特に外国人雇用に関しては社会の動きへの対応を含め法人としての考え方が大きく施設管理者等ではなかなか回答し難い点もあり、また、外国人の在留に係る制度や動向が難解であり、受入れ体制も含め簡単には検討に踏み出せない面も少なからずあるものと思われ、これらの要素により、「3わからない」、「4外国人の雇用はしない」という回答が多かったものと思われる。

8 外国人材雇用の人数、制度について

【設問】 質問7で1または2と回答した場合、活用制度（または活用検討している制度）における雇用（または雇用検討）の人数（想定人数）を記載してください。



(注釈) 1 技能実習 2 E P A (経済連携協定) 3 在留資格「介護」 4 特定技能1号 5 その他



(注釈) 1 技能実習 2 EPA (経済連携協定) 3 在留資格「介護」 4 特定技能1号 5 その他

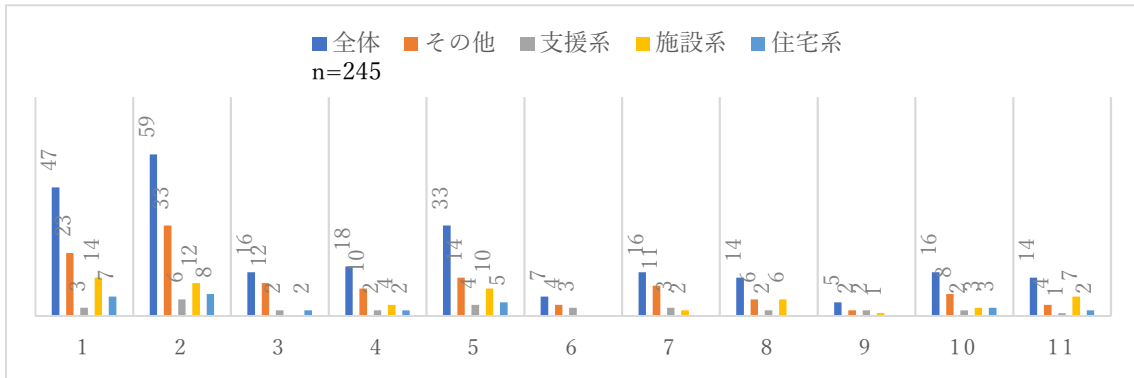
分析概要

「既に雇用している」と回答した事業所は全体で3事業所あり、分類類型その他では「2 EPA」を活用し2名(1事業所)、施設系では「1技能実習」を活用し2名(2事業所)であった。

「外国人材の活用を検討している」と回答した事業所は施設系が最も多く、支援系はなかった。また、検討している制度としては、「1技能実習」が最も多かった。

9 外国人材雇用の課題や懸念について

【設問】 外国人材雇用にかかる課題や懸念される事項を上位3つまで番号を○で選んでください。



(注釈) 1 職場内(職員)とのコミュニケーション
 2 利用者とのコミュニケーション
 3 利用者の外国人への偏見等
 4 実務における、労働慣行(日本式の雇用契約や就労条件等)の違い
 5 実務における、日本語による介護関連の記録等
 6 実務における、自動車の運転
 7 指導、教育をできるスタッフの不足
 8 外国人労働者の不安感や悩みなどの対応
 9 外国人雇用各制度の手続きへの対応
 10 食や文化の違い等を考慮した職場や住まい等の対応

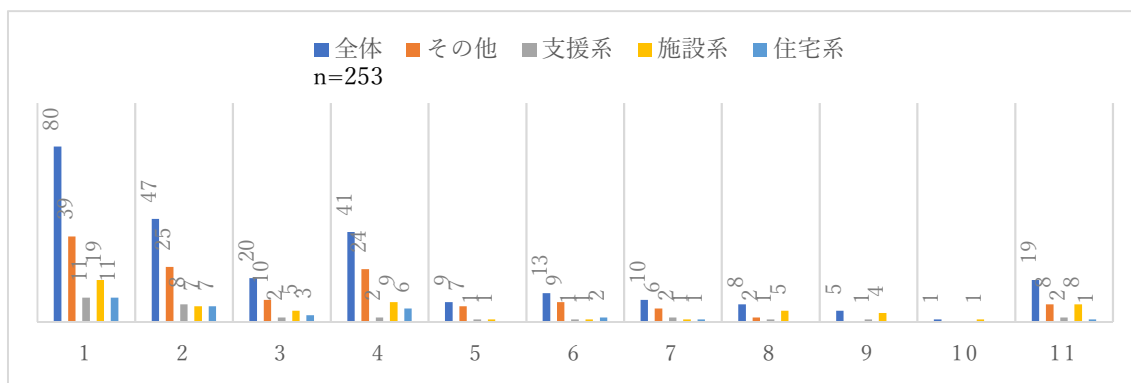
11 コスト増（受入体制、住まいの整備や制度手続き等）

分析概要

外国人材雇用の課題や懸念については、全体で最も多かった回答が「1 職場内（職員）とのコミュニケーション」、次に多かった回答が「2 利用者とのコミュニケーション」、その次に多かった回答が「5 実務における、日本語による介護関連の記録等」であった。全体の傾向と分類類型別、また地域によってもあまり大きな差は見られず、コストや手続きよりも、コミュニケーションや実務への不安感が大きい傾向にあると思われる。

10 介護人材不足への打開策について

【設問】 介護人材不足への打開策について、有効と思われるものを上位 3 つまで番号を○で選んでください。



- (注釈) 1 介護報酬（賃金）アップ
 2 業務量、事務負担の軽減
 3 定年まで安心して働けるなど、長期雇用の確保
 4 休暇の活用促進や福利厚生の充実
 5 出産や子育てを支援する制度の充実
 6 資格取得や研修等による能力向上に向けた支援
 7 専門職種確保に対する支援
 8 移住定住施策と連携した地域外からの人材確保
 9 外国人介護人材の受入れ
 10 介護ロボットの活用
 11 介護や福祉職のイメージアップ

自由記載欄

・ <自治体で考えて欲しいこと>石狩市として石狩市民に「福祉」を永続的に提供するための財源を設けているか。福祉は公共性が高いと考えて欲しい。各事業所の従業員の雇用は各法人や企業に任せているが、結局のところ石狩市民を支援しているのは、「福祉・介護・保育・障がい・不登校等」の支援をしている『現場の職員』です。福祉は人が足りない現状に対して、福祉を志す「人」への支援をして欲しい。支援をするのは企業ではない。石狩市民にして欲しい。石狩市に所属したい人達もいる。若い世代であっても。心地よさのある「地元愛」のようなものがあると感じる。自分で住んでいる街は、自分たちで守る。そのために、この先 20 年 40 年を見据えた対応策として、『石狩市民に向けた支援』（簡単に考えると、助成金を個人に出す。住民税を免除する。とか）はできないか。福祉の資

格取得支援ではなく。(例：高島市・厚木市など)『人』がいない。のではなく、『人』を呼び寄せる・定住する魅力を発信する。石狩市民のために働いている人達に対して、目で見える、体感できる恩恵を自治体が出すことになれば、財源も相当必要になるとおもわれるが、それを我が事として、石狩市に考えて欲しい。石狩市の「経済発展」を考えると、港湾事業、新港地区の発展、商業施設誘致など経済は素晴らしいものに見える。経済が発展するうえで、「人」の確保は必要不可欠ではないでしょうか。

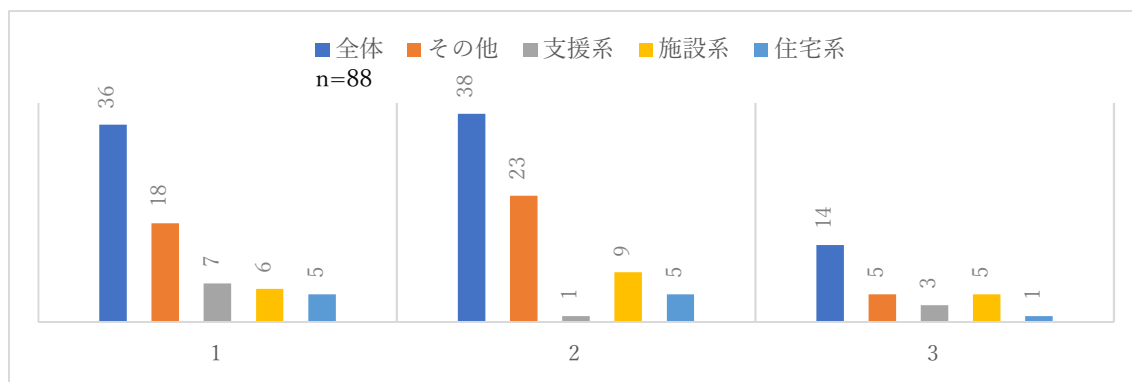
- ・正直、給与は大切かと思えます。ただ決められた報酬の中で行っているのが難しいと思いますが、またイメージや若年層にむけてマイナスイメージの払拭は同時に行っていきたいと考えています。
- ・初任者研修や実務者研修を石狩市で開催し、その費用を石狩市で出す。その代わり1～3年は石狩市の事業所で働いてもらう。
- ・キツイ、キタナイのイメージを払拭しないと賃金だけ高くても人材は確保できないと思っております。
- ・介護報酬は下がるが、人件費はあがっている。(時給など)
- ・介護は労働としてハードで、心ない言葉を浴びせられるなど精神的にもキツイ、医療、介護は税金が使われていることから考えてサービス業という枠にははまらないので、介護に注力できる環境設定が重要。
- ・給料が高いところには必ず人は集まるかと…
- ・介護職より100円ショップの方が時給が高いという時点で既に敗北しています。生産年齢人口の減少が今後も続く中で、どう人材確保していくか…答えは明日なのですが、財政面での思い切った政策が無い限り、明るい未来はないです。
- ・国の政策により、今後の福祉が左右される。特に過疎地域においては、労働力の低下が著しく、外国人の労働力に頼らざるを得ない。
- ・大きな工場を建てて家族で移住してもらう。大学の建設。
- ・シルバーホームにも要介護状態が多くなってしまふ。一人で何も出来ない方が入所してしまふ。

分析概要

介護人材不足への打開策については、全体で最も多かった回答が「1 介護報酬（賃金）アップ、次に多かった回答が「2 業務量、事務負担の軽減」、その次に多かった回答が「4 休暇の活用促進や福利厚生の充実」であった。全体の傾向と分類類型別、また地域によってもあまり大きな差は見られず、賃金の増と同時に業務負担の軽減や休暇促進等、直接的な労働環境の改善が多く求められていると思われる。また、上に記載した上位3位の次には、「3 定年まで安心して働けるなど、長期雇用の確保」と「11 介護や福祉職のイメージアップ」が多く回答されているが、労働環境の改善と並行して、長期的な人材確保策としての介護や福祉職のイメージアップが求められていると思われる。

11 ハラスメント対策について

【設問】 利用者（またはその家族等）によるハラスメントは、職場におけるパワハラやセクハラ等と異なる課題として取り組む必要がありますが、介護現場におけるハラスメント対策マニュアルについて（介護保険最新情報 Vol.718 2019.4.10）等を参考に、何らかの取組を行っていますか。



（注釈） 1 行っていない 2 検討している 3 行っている

具体例等自由記載欄

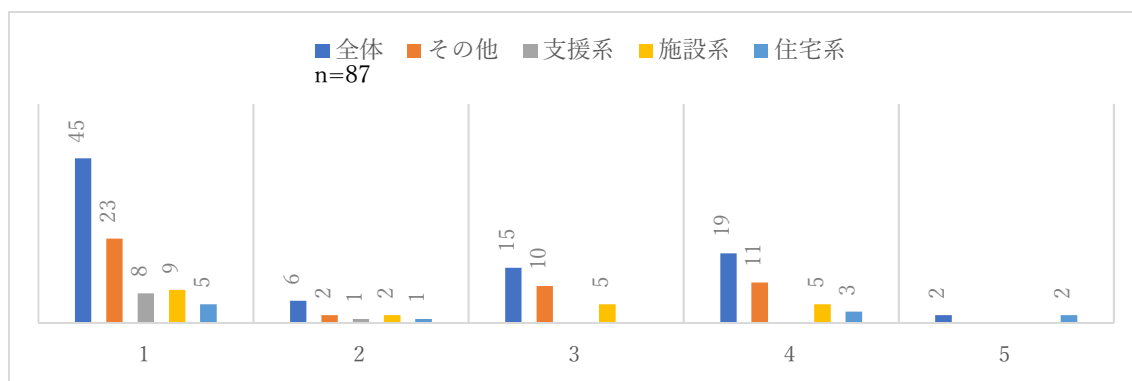
- ・ハラスメントは人間関係の結果です。今、始まった話ではない。入居者様やご家族においても信頼を履き違える方もいますが、そのような場合は都度、役職者が対応することになっています。
- ・研修を行っている。規定がある。
- ・会社に困難事例の対策部門があり、社内で全面的にバックアップする取り組みがある。
- ・研修
- ・担当職員をハラスメント防止研修に参加させている。31年度令和元年11月 福祉施設に望まれるハラスメント防止セミナー出席
- ・外部講師による研修会実施
- ・非常に重要な課題と捉えている。
- ・相談しやすい職場づくりとして窓口の設置、利用契約書で契約時に伝える
- ・全社員へ向け研修
- ・職員相談窓口や会議での話合いの場を定期的に設け対応している。
- ・毎月メンタルヘルスに関する資料を全職員に配布している。（テーマは毎月変更しながら、B5用紙裏表1枚分）
- ・毎月全職員にメンタルヘルスに関する資料を配布、テーマは毎月毎に変えている。（ハラスメントに関するテーマも含有）
- ・就業規則にて各パワーハラスメントの禁止、相談窓口、対応について定めている。又、研修の実施。

分析概要

全体では、「2検討している」に次いで「1行っていない」という回答が多かった。分類類型別に見ると、施設系において、「3行っている」、「2検討している」と回答している件数が他の類型よりも多く見られた。これは施設系が他の介護サービスよりも日常的な介護現場においてハラスメントが身近にあり、対策が迫られている状況にあることによるものと思われる。

12 職員の資質向上について

【設問】 職員の資質向上にあたり、様々な研修等への参加または実施をしていると思いますが、その効果についてはどのように感じていますか。



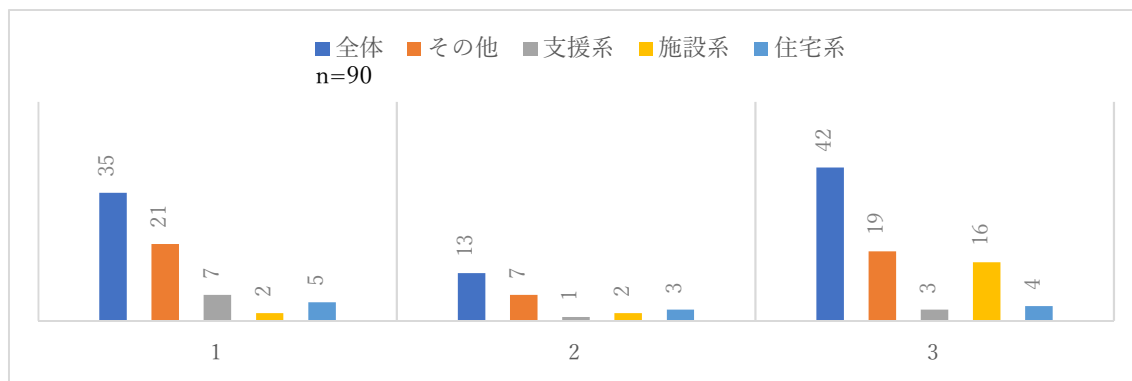
- (注釈) 1 研修等を必要な分は実施等しており、効果がある
2 研修等を必要な分は実施等しているが、効果的ではない
3 研修等を実施等しているが、十分に実施できておらず、効果的ではない
4 研修等を実施したいが、時間等余裕がなくできていない
5 研修等の必要はない

分析概要

全体では、「1 研修等を必要な分は実施等しており、効果がある」という回答が最も多く、次いで「4 研修等を実施したいが、時間等余裕がなくできていない」という回答が多かった。事業所の7割以上は職員の資質向上にあたり様々な研修等の実施又は参加をしており、その半数以上は効果的と感じている一方、事業所の2割程度は研修等を実施したいが、時間等余裕がないと感じていると思われる。分類類型別に見ると、その他および施設系では全体と同じ状況であり、支援系は概ね研修等を実施し、効果的であると感じており、住宅系では概ね全体と同じ状況であるが、「5 研修等の必要はない」と回答している事業所もあった。

13 事業所外との交流について

【設問】 貴事業所においては、利用者子ども（保育園や学校、子ども会等）や障がい者（施設等）、地域住民（町内会イベント等）等との交流を行っていますか。



(注釈) 1 行っていない 2 検討している 3 行っている

具体例等自由記載欄

- ・町内会主催のお祭り、敬老会などの参加、認知症カフェの開催など。
- ・今年度10月より「地域の子どもたちの作品展」として、障がい者事業所の作品展を開催しています。今後は障がい者に留まらず、世代を超えた多くの方々と交流もしていく予定で検討しています。町内会の催し物として法人紹介、高齢者福祉事情などの説明会をしています。
- ・近くの中学生の体験学習の受け入れ。
- ・近くの保育園への訪問
- ・障害児デイ事業所の作品展示（当施設内で）
- ・町内会 夏祭り参加、小学校 訪問受け入れ
- ・保育園からの園児訪問受け入れ
- ・町内会イベントの参加
- ・保育園の園児との交流
- ・となりの保育園が年3回程度慰労会をおこなっている。中学校の生徒が職場体験学習に来ている。となりの町内会館のサロンへの参加。一年に一回お祭り等の行事への参加。
- ・同町内会 GH とイベント、町内敬老会参加
- ・院内行事（夏祭り等）の際、保育園児の出し物の協力を得ている。
- ・認知症カフェ・レストラン・現役サッカー選手と交流
- ・年に三回程度、交流は行っている。利用者さんにとっては楽しみの時間である。
- ・外部（学校、町内会イベント）等は交流している
- ・地域のボランティア要請や地域イベントへの参加
- ・年に1,2回地域コミュニティセンターを使用し、地域住民との交流イベントを開催、200名程度の参加がある。
- ・数は多くありませんが、町内会の回覧板等を参考に地域の行事等に出来るだけ参加できる様、予定を組んでおります。また、歌や紙芝居などのボランティアにつき1~2回程度お越しいただいております。
- ・認知症カフェ、注文を間違えるレストラン、家族の会
- ・同一建物内の事業所と行事を行っています。（クリスマスや夏祭りなど）
- ・敬老会に近隣の保育園3カ所と毎年交流を行なっている。
- ・毎月第2日曜日、地域交流サロンを開催している。デイサービスの企画として、幼稚園児さんと交流会を行なっている。
- ・町内会の祭りへの参加、ボランティアに来ていただく
- ・イコロン村さんやセジュールまるしえさんでの勤労、夏祭りを開催し交流実施、家族会への参加
- ・不定期で実際に保育園と交流している。

- ・近隣保育園の子供による発表、近隣小学校の児童に対する施設見学、町内会夏祭りでの演奏など
- ・町内会の夏祭りの参加
- ・勉強会、研修会の参加
- ・人員不足で行えないでいる。(以前はよく行っていた)
- ・以前和大規模に行なっていたが、人員不足で最近は行っていない。
- ・交流といえるか判りませんが、年2回、7月と10月に事業所が休みの土曜日にお祭り・バザーを開催し、近隣の方々に来て頂いています。各100～150名位(10:00～14:00)
- ・地域の小、中学校との交流会等
- ・老人クラブ、敬老会参加
- ・夏祭り、出前講座、発表会参加、カラオケ愛好会慰問、中学校施設慰問
- ・個人自由参加。
- ・敬老会等の行事における、保育園児、小中学校児童生徒との交流実施
- ・デイサービス事業の敬老会への参加や市主催行事への参加

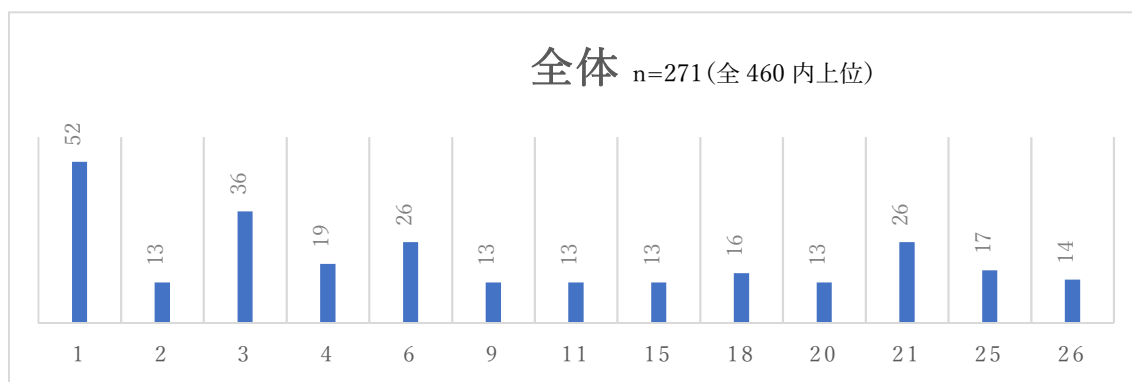
分析概要

全体では、概ね半数の事業所が地域等との交流を行っている。分類類型別に見ると、その他は全体と概ね同様の状況であり、支援系でも3事業所が地域等との交流を行っており、施設系においては大半の事業所が地域等との交流を行っている。住宅系においても、概ね半数は地域等との交流を行っている。特に施設系は、施設と地域との繋がりを深めるとともに、入所者のレクリエーションも兼ねて精力的に行っている状況があると思われる。

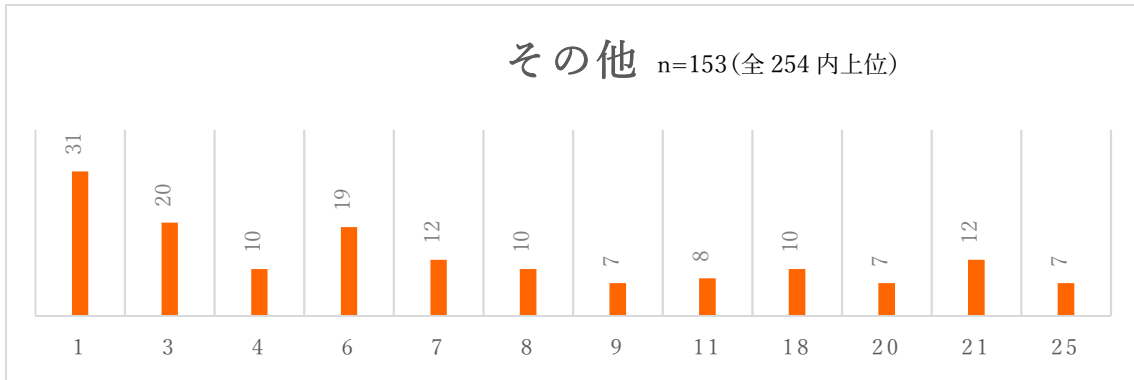
14 利用者ニーズの変化等について

【設問】 石狩市内で、現在市民ニーズの高い介護サービス等は何だと思いますか。上位6つ以内まで番号を○で選んでください。

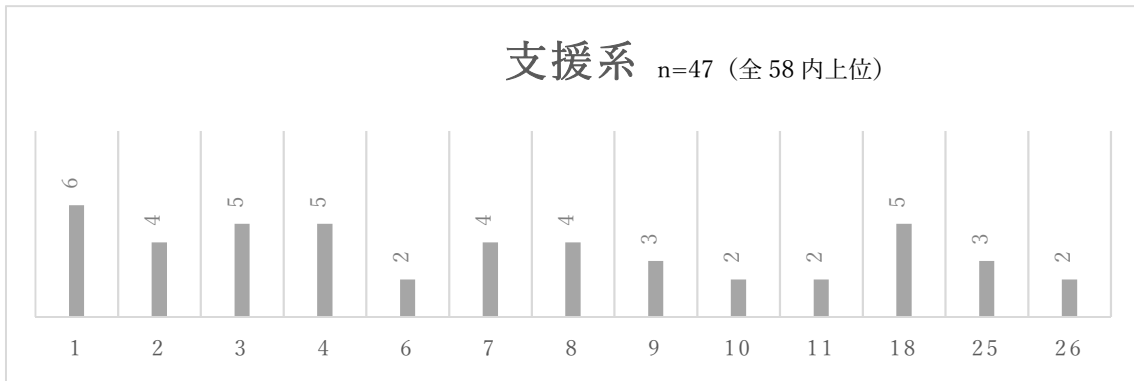
サービス類型が多いため、ここでは全体、分類類型別にそれぞれ概ね上位10サービスを表示している。



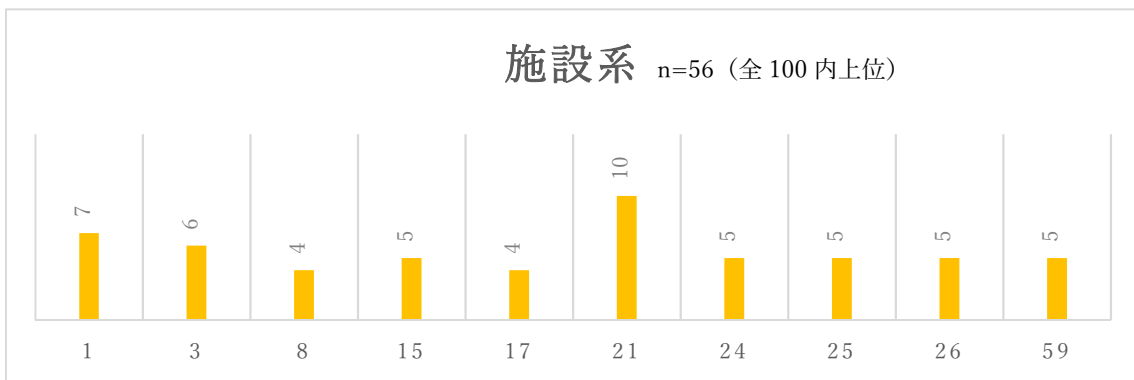
(注釈) 1 (介護) 訪問介護 2 (介護) 訪問入浴介護 3 (介護) 訪問看護
 4 (介護) 訪問リハ 6 (介護) 通所介護 9 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設)
 11 (介護) 福祉用具貸与 15 (介護) 居宅介護支援 18 (介護地密) 地域密着型通所介護
 20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護 21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護
 25 (介護施設) 介護老人福祉施設 26 (介護施設) 介護老人保健施設



(注釈) 1 (介護) 訪問介護 3 (介護) 訪問看護 4 (介護) 訪問リハ 6 (介護) 通所介護
 7 (介護) 通所リハ 8 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設)
 9 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設) 11 (介護) 福祉用具貸与
 18 (介護地密) 地域密着型通所介護 20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護
 21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護 25 (介護施設) 介護老人福祉施設

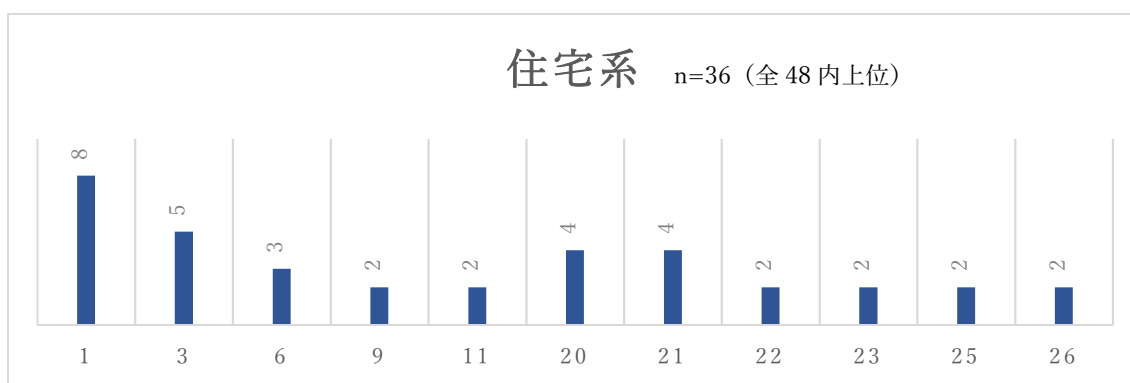


(注釈) 1 (介護) 訪問介護 2 (介護) 訪問入浴介護 3 (介護) 訪問看護
 4 (介護) 訪問リハ 6 (介護) 通所介護 7 (介護) 通所リハ
 8 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設)
 9 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設)
 10 (介護) 短期入所療養介護 (介護療養型医療施設等) 11 (介護) 福祉用具貸与
 18 (介護地密) 地域密着型通所介護 25 (介護施設) 介護老人福祉施設
 26 (介護施設) 介護老人保健施設



(注釈) 1 (介護) 訪問介護 3 (介護) 訪問看護
 8 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設) 15 (介護) 居宅介護支援
 17 (介護地密) 夜間対応型訪問介護 21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護
 24 (介護地密) 複合型サービス (看多機) 25 (介護施設) 介護老人福祉施設

26 (介護施設) 介護老人保健施設 59 (住宅) サービス付き高齢者向け住宅



(注釈) 1 (介護) 訪問介護 3 (介護) 訪問看護 6 (介護) 通所介護
 9 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設) 11 (介護) 福祉用具貸与
 20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護 21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護
 22 (介護地密) 地域密着型特定施設入居者生活介護
 23 (介護地密) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
 25 (介護施設) 介護老人福祉施設 26 (介護施設) 介護老人保健施設

分析概要

全体では、「1 (介護) 訪問介護」「3 (介護) 訪問看護」「6 (介護) 通所介護、21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護」「4 (介護) 訪問リハ」の順に回答が多かった。

分類類型別に見た場合、その他では、「1 (介護) 訪問介護」「3 (介護) 訪問看護」「6 (介護) 通所介護」「7 (介護) 通所リハ、21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護」の順に回答が多かった。

支援系では、「1 (介護) 訪問介護」「3 (介護) 訪問看護、4 (介護) 訪問リハ、18 (介護地密) 地域密着型通所介護」「2 (介護) 訪問入浴介護、7 (介護) 通所リハ、8 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設)」の順に回答が多かった。8 (介護) 短期入所生活介護 (介護老人保健施設) のニーズがあるとの回答が特徴的と思われる。

施設系では、「21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護」「1 (介護) 訪問介護」「3 (介護) 訪問看護」「15 (介護) 居宅介護支援、24 (介護地密) 複合型サービス (看多機)、25 (介護施設) 介護老人福祉施設、26 (介護施設) 介護老人保健施設、59 (住宅) サービス付き高齢者向け住宅」の順に回答が多かった。24 (介護地密) 複合型サービス (看護小規模多機能型居宅介護) のニーズがあるとの回答が特徴的と思われる。

住宅系では、「1 (介護) 訪問介護」「3 (介護) 訪問看護」「20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護、21 (介護地密) 認知症対応型共同生活介護」「6 (介護) 通所介護」の順に回答が多かった。「20 (介護地密) 小規模多機能型居宅介護」のニーズがあるとの回答が多く見られたことが特徴的と思われる。

各分類類型により視点が若干異なっているように思われるが、全体を通してみると、在宅に係る介護給付の訪問介護、看護のニーズとあわせて介護老人保健施設での看護・医学的な

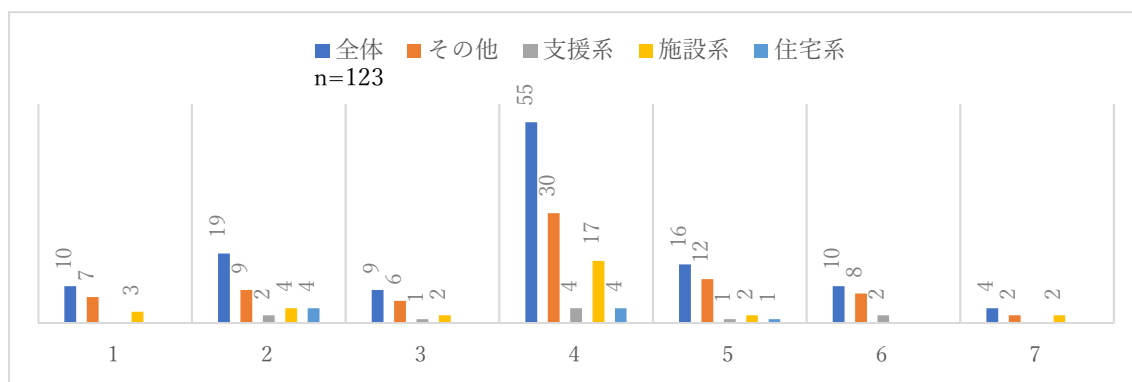
短期入所生活介護もあり、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護のニーズもあることから、在宅介護ニーズが高いと思われる。また、グループホーム（認知症対応型共同生活介護）のニーズを筆頭に、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、サービス付き高齢者向け住宅のニーズも高いことが伺われる。

15 貴事業所の所管するサービス等について

このアンケート項目は事業所のサービス等の確認なので省略する。

16 サービスの需要と供給バランスについて

【設問】 貴事業所で概ね想定する事業エリア内において、貴事業所の提供するサービスの需要と供給の現在（または今後数年先）の状況をどう思いますか。質問 15 の区分毎にひとつ〇で選んでください。



- (注釈) 1 サービス量が多いが、利用者は減少
 2 サービス量は多く、利用者も増加
 3 サービス量は適正だが、利用者は若干減少
 4 サービス量は適正で、利用者も横ばい
 5 サービス量は適正だが、利用者は若干増加
 6 サービス量は少なく、利用者も減少
 7 サービス量は少ないが、利用者は増加

分析概要

全体では、「4 サービス量は適正で、利用者も横ばい」「2 サービス量は多く、利用者も増加」「5 サービス量は適正だが、利用者は若干増加」の順に回答が多く、事業所の提供するサービスについては、概ね適正な需要と供給バランスがとれていると思われる。

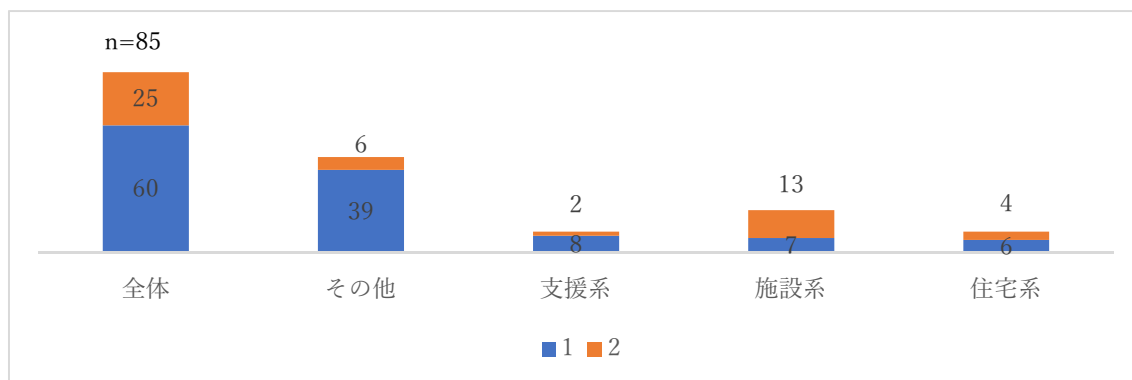
需要と供給がアンバランスであり「1 サービス量が多いが、利用者は減少」と感じている事業所の提供するサービスは、10 回答の内、通所（認知症対応型を含む）が9件、介護老人福祉施設が1件であり、地域別の視点ではこの1件が厚田区であった。

「7 サービス量は少ないが、利用者は増加」と感じている事業所の提供するサービスは、

4 回答の内、通所が 1 件、訪問看護が 1 件、グループホームが 2 件であり、地域別の視点ではこの 2 件の内 1 件が浜益区であった。

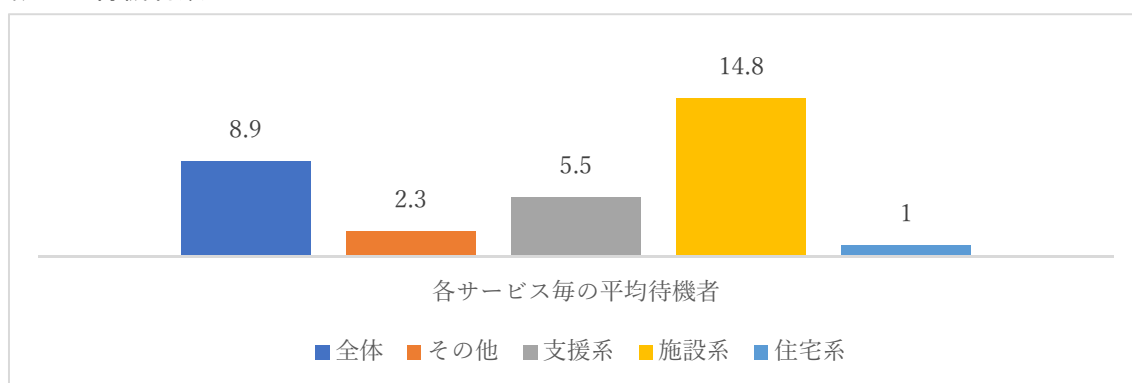
17 提供サービスの待機者について

【設問】 貴事業所の提供するサービスにおいて、待機している利用者はいますか。いる場合はどれくらいの人数がいますか。



(注釈) 1 いない (そのようなサービスではない) 2 いる

概ねの待機者数



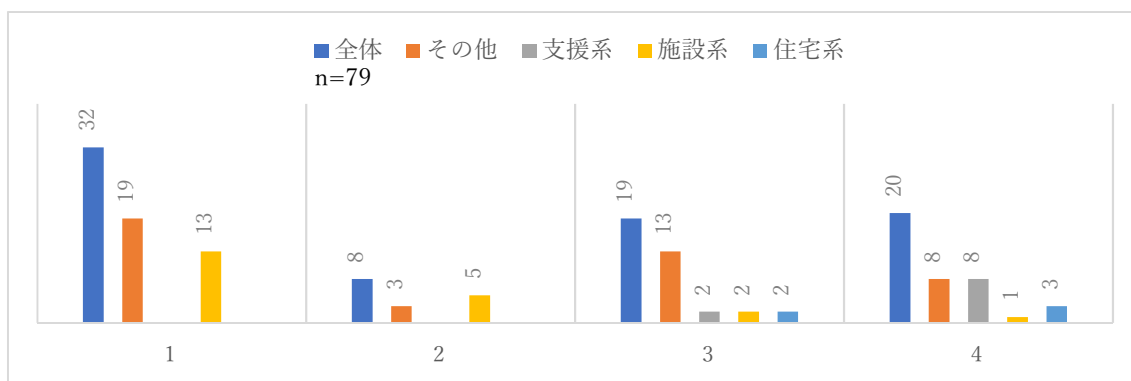
分析概要

事業所の提供する各サービスにおいて、待機している利用者がいると回答した事業所は 25 事業所 (約 4 割) であり、施設系が最も多かった。

概ねの各サービス毎の平均待機者数は全体で 8.5 人 (26 回答で合計 221 人)、その他で 2.3 人 (6 回答で合計 14 人)、支援系で 5.5 人 (2 回答で合計 11 人)、施設系で 14 人 (13 回答で合計 182 人)、住宅系で 1 人 (4 回答で合計 4 人) であった。概ねの待機者は、施設系が 182 人と最も多く、特別養護老人ホームが概ね 7 割、グループホームが概ね 2 割であり、地域別に見ると、厚田区においてはグループホームで 1 人、浜益区においては特別養護老人ホームが 15 人、グループホームで 4 人、住宅系で 2 人と回答があった。

18 特定処遇改善加算について

【設問】 貴事業所では、介護職員等特定処遇改善加算（令和元年 10 月開始）について、どのような対応をしていますか。（有料老人ホーム等は回答不要です。）



（注釈） 1 算定している 2 算定する予定 3 算定しない 4 行っているサービスが対象でない

分析概要

支援系、住宅系についてはそもそも処遇改善加算の非対象サービスであることから、「3 算定しない」又は「4 行っているサービスが対象でない」を回答している。その他では、約半数の事業所が「1 算定している」「2 算定する予定」と回答し、「3 算定しない」と回答した 13 回答中、10 事業所が対象サービスであったが、これは制度が始って間もないこともあり、事務的な負担等によるものと思われる。施設系では、8 割強の事業所が「1 算定している」「2 算定する予定」と回答し、3 事業所が「3 算定しない」「4 行っているサービスが対象でない」との回答があった。

19 その他のご意見等

- ・人材確保についても記載しましたが、積極的な人材確保を行政も考えてください。話題性のある、目が飛び出るほどの施策を打ち出して欲しいです。そして、全国・全道に発信して欲しいです。外国人留学生、技能実習生の受け入れに、補助金・助成金の支援をしてください。事業所にも支援してほしいですが、それだけではなく外国人個人に支援をして欲しい。
- ・本当に自宅での看取りを推奨しているのであれば、療養通所介護などの重傷の方も個別に対応できるように支援し、末期がん利用も通所に行き家族のレスパイトを確保しなければ継続したサービスにならない。あと、居宅に対してのサポートが弱い、このままだと質の良いケアマネはいなくなります。
- ・開設して一年半が過ぎておりますが、以前に比べて介護職に対して興味のある若者が減ってきているように思います。これはもちろん少子化の影響もあるかと思いますが仕事としてやりがいや楽しさを持って行えるような魅力を発信していかなければ人材不足はこれからもどんどん進んでいくように思います。地域の若年層や住民がもっと気軽に来れるホームを作っていきたいのですが、市としても何か学校や保育園と施設が協力や連携できる働きかけについて協力して頂けるとうれしいと思います。
- ・別紙、小規模多機能型居宅介護にて記載済み。
- ・現在待機者はとっていない（いつ入居出来るかわからないし予定で待機してもらうのはしのびないので）しかし入居を希望している方は、数名いるのが実情です。

- ・地域密着型の小規模デイサービスを単体で維持していく事はとても大変です。横のつながりや、ケアマネージャーさんとの信頼関係を築いて連携を取れる様がんばります。リハビリ特化型として特色がたりないのか、ここ半年体験会や見学者もなく、利用者は入院や介護度の変更で半年の間に20名(のべ人数)程減りました。増加の見込みがなく本当に困ってます。
- ・職員の高齢化と若い職員が募集しても来ないので、育成できる職員がいない。最低賃金は上がる一方、介護報酬の単位が上がらないので人員を増やしたり、余裕の人員体制をつくれない。
- ・泊りを希望されるご利用者様が多く部屋のやりくりで苦労しています。
- ・福祉用具貸与事業所だが、積極的に受け入れはしていない。特に課題も見当たらない。
- ・社会保障審議会では、2010年の次期改定に向け要介護1・2の通所介護を介護保険から外し、自治体の地域支援事業へ移行。認定者の大半を占める要介護1・2には認知症の方が多くいます。介護離職など社会問題は深刻化し、保険料は年々上がり、給付は抑制され、利用者さんは負担増、保険料を払っても使えないサービスになっていくのではないのでしょうか。事業所に継続にもいきょうあります。不安が多くあります。
- ・介護保険制度そのものについて、御利用者が元気で介護度が軽くなり、提供者が一方で経営上の収益が減っていくという現状を何とかしてほしい。
- ・職員の確保が本当に難しいです。
- ・外国人労働者の受入れ支援を行政でもフォローしてくれたら、ありがたいです。
- ・老人が増えるのに、介護者がいない。浜益区には、予備軍が沢山あります。
- ・シルバーホームから施設とゆう現状。食事だけ提供だが介護を必要な方が入店する。食事作りの職員に負担が大きい。